

Managerial Competence Test

傾向と対策

JTA公認翻訳専門職試験の4つのコンピテンス・テストの最後がマネジリアル・コンピテンスの試験です。四肢選択の問題が30問で、全問が日本語による出題です。制限時間は30分ですから1問につき1分位の時間をかけて正答を選択することになります。

1. どのような内容か。

試験の案内が表示されている社団法人日本翻訳協会のウェブページを閲覧しますと、このテストはプロフェッショナル翻訳者の職業運用能力、具体的には翻訳専門職としての職業倫理、翻訳職業マネジメント、翻訳産業界における位置づけなどに対する理解度をテストする旨が書かれています。つまり主催団体である日本翻訳協会の意図は、プロフェッショナル翻訳者である以上、単に一般翻訳能力や専門分野の翻訳能力があるだけでは不足で、翻訳事業をプロとして運営できる知識技能を備えていることを要件とするということです。プロフェッショナル翻訳者としてのマネジリアル・コンピテンスは、①職業倫理、②顧客マーケティング、③翻訳生産体制の三つの面から試されることになります。

(1) 職業倫理

プロフェッショナルな職業人として翻訳というサービスを提供するのですからそれに相応しい行動をとらねばなりません。たとえば、①顧客の秘密を守らなければならないこと、②法令に違反する行為を執らないこと、③原文尊重と読み手重視の狭間で翻訳の正しさを保たなければならないこと、④常に自己の技能の向上を図らなければならないこと、⑤翻訳者本人がサービスを提供すべきであって、依頼者に無断で他人にサービスを提供させてはならないこと、⑥専門能力の涵養に努めるべきであること、⑦他のプロフェッショナル翻訳者との協働によって翻訳者としての地位向上を目標すべきこと、⑧公正な報酬としての翻訳料金を維持すべきこと、⑨他のプロフェッショナル翻訳者の誹謗中傷をしないこと、⑩自己の業務のかたはら社会に貢献すべきこと、などの行為です。このような職業倫理、あるいは行動規範は、その職業がプロフェッショナルな職業として社会に認められるには必須のものです。医師、弁護士、公認会計士、建築士などプロフェッショナルな職業と社会に認められた職業人はすべてこのような職業倫理綱領を有しておりそれに従っています。翻訳者もプロフェッショナルを目指すからにはそのような職業倫理コードがなくてはならないでしょう。アメリカのATA (American Translators Association) やオーストラリアのNAATI (National Accreditation Authority for Translators and Interpreters) もこのようなコード・オブ・エシックス (倫理基準) を持ち、その認定試験にも出題されています。

(2) 顧客マーケティング

顧客あってこそその翻訳サービスですから、プロフェッショナル翻訳者は正しい顧客マーケティングを行わなくてはなりません。マネジリアル・コンピテンス・テスト3分の1は翻訳者のサービス提供のマーケティングに関する出題となっています。翻訳者の行うマーケティング活動は顧客の満足 (Customer Satisfaction) を第一義とすべきですが、同時に公正な翻訳 (原文著作者の真意を伝達すること) という制約もあります。翻訳者がどのようなマーケティングを行うべきかが出題のジャンルです。①翻訳者の広告、②顧客維持活動、③翻訳見積り、④翻訳料金計算、⑤翻訳受託契約、⑥翻訳成果物の納品、⑦翻